

愛知・岐阜 地方会

第2号

第2回 愛知・岐阜 地方会 2014年11月8日(土) 13:00~17:00
 開催地：社会医療法人大雄会 総合大雄会病院 10階講堂

【開会挨拶】 社会医療法人大雄会 総合大雄会病院 副院長 村瀬 寛先生

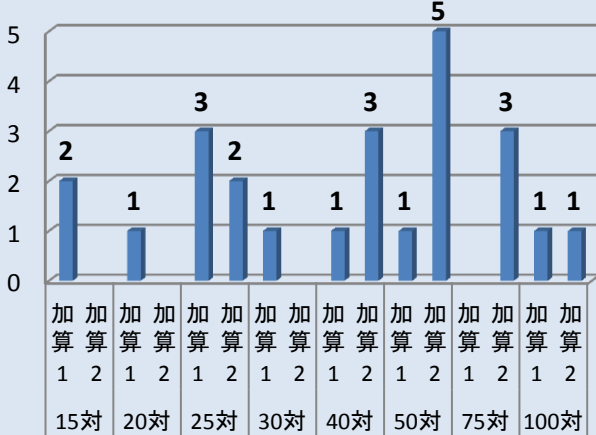
病院経営にも貢献できる職種！！



社会医療法人大雄会 総合大雄会病院を代表し、副院長村瀬 寛先生より、経営者側の立場から、「医師事務作業補助者が医師の事務的作業をお手伝いすることで、医師が直接患者さんを診る機会が多くなることは、医療につながり、患者さんのためにもなり、しいては経営に繋がります。医師との間の問題点・悩みなどは、その先にいる患者さんにも影響します。皆さんの仕事が病院経営に貢献していることを知り、やる気を持って、頑張ってください」と、ご挨拶いただきました。

愛知・岐阜支部 支部長 小島 敏美

業務分類アンケート



第1回 愛知・岐阜 地方会に参加頂いた50医療機関中、36医療機関から業務分類に関するアンケートのご回答を頂き、その結果報告を行いました。

医師事務作業補助体制加算の届出をしているのは全体の67%（24施設）の医療機関。2014年の診療報酬改訂により新設された加算Ⅰはそのうちの42%（10施設）加算Ⅱは58%（14施設）。雇用形態、呼称、業務内容に関しては、医療機関により様々でした。

学び合い式による実践スキル

今回のテーマは「学び合い式による実践スキル」と題しました。講演から学ぶことはもちろん、グループワークでは自分たちが当たり前に行っている業務が他院にとっては新たなことであったり、今後の業務に大いに役立つことであったりします。私たち医師事務作業補助者が今まで模索、経験し築き上げてきた様々な情報を交換し合い、そこから何かを学び、明日からの業務に活かすことができ、お互いがスキルアップできるようにと・・・そんな願いをこめて、このテーマにしました。



愛知・岐阜支部 医師サポートチーム結成

愛知・岐阜支部では、当支部代表世話人である岡崎市市民病院 副院長 早川文雄先生のお声かけにて、医師によるサポートチームを結成いたしました。医師事務作業補助者は、医師の事務的作業を軽減することを目的として誕生した職種ですが、その私たちが医師がサポートして下さるという、【医師によるサポートチーム】は、私たち医師事務作業補助者にとって、大変うれしく、喜ばしいことでもあります。今回はグループワークにも積極的にご参加頂き、率直なご意見をたくさん頂きました。開催後のアンケートでも、医師と直接話が出来てうれしかったと多数頂きました。

講演【アイスブレイク（ドクター別対処法）】

講師：藤田保健衛生大学 医療科学部 教授 米本 倉基先生

医師の能力を最大限に引き出すために



「2人1組になり、相手を10秒観察し、相手の何かをほめてください。さあどうぞ」会場内は一気に和やかな雰囲気となりました。医師も人間です。距離を縮めるには、うれしくなるようなことを見つけてほめる！これを意識し繰り返す行うことで、自然な会話が身につきます。嫌い・苦手な医師が相手でも、自分が努力すれば、距離を縮めることは可能です。傾聴する！！何も考えずに、ただ、相手が何を言いたいのかをじっくり聞くことがポイント。相手に集中しないと、本当に言いたいことは聴けません。これらの手法を身につけ、医師の能力を最大限に引き出すことが出来るようになれば仕事がしやすくなります。

グループワーク

座長：名古屋大学附属病院 野田 真喜子



名古屋大学附属病院 野田 真喜子さんが座長となり、愛知・岐阜 地方会では初めてのグループワークを行いました。診断書・介護保険・代行入力のセッションに別れ、それぞれ、問題点、気になることなどを出し合い、それについて討議を行いました。グループワークには、医師も積極的に参加し、熱い討議となりました。

時間の関係で、発表形式ではなく、完成した模造紙を、廊下に張りだしました。



苦手な先生を思い浮かべてください！！



(株)日本医療企画 中部支社支社長代理 星 剛史さん、藤田保健衛生大学 米本先生による、コーチング心理学の要素を使ったコミュニケーションスキルを講演して頂きました。価値観の違いがコミュニケーションの阻害になっているかもしれないという観点から、まずは自分を知ること、次に苦手な相手を知り、そして相手との違いを理解したうえで効果的な関わり方を知りましょう。苦手な医師とどうやってコミュニケーションをとると有効的かをタイプ別に楽しく教えて頂きました。

【医師による医学講座 ～糖尿病～】

春日井市民病院 副院長 佐々木 洋光先生

誰でも知っている病名だけど・・・



だれでも知っている病名「糖尿病」ですが、医師事務作業補助者が正しく理解しているかは怪しい。ということで、

- ・血糖が高くなるのはなぜ？
- ・血糖が高いとなぜいけないの？
- ・なぜ合併症が起こるの？

などの、糖尿病についての一般的な知識と、糖尿病と医師事務作業補助者の関わり合いについて春日井市民病院 副院長 佐々木 洋光先生より講演頂きました。

講演 【現状と今後の活動】

講師：日本医師事務作業補助研究会 理事長 矢口智子

医師事務作業補助業務は将来どうなっているの？



NPO法人 日本医師事務作業補助研究会では、医師事務作業補助者の求めている、継続的な学習の機会（医学知識、規則等）、情報交換が出来る場として、各地で地方会・全国大会を開催しています。

今後は

- ・全国の事例を通じた効果測定の枠組み作りと調査の実施
- ・キャリアパスの明確化と普及

を行っていきます。

将来どうなっているの？何をどこまでめざせばいいの？など、実務者の模索はこれからも続きます。医師事務作業補助部門を確立することで、キャリアパスの形成に繋がります。これからも、現場の皆さんの声を、国とか行政、国民の皆様へ届けられるような研究会活動を行っていきます。

更なるステップアップ！！



こういう会に参加する事で、書類作成、シュライバー（リアルタイムの代行入力）などをしている方それぞれが、普段病院では感じない現在の自分の立ち位置を感じた事と思います。

皆さんのスキルアップは間違いなく医師の負担軽減に繋がります。皆さんの活躍を医師が歓迎しないはずはありません。これからも医師のサポートをして、更なるステップアップを目指して下さい。

手と手を取り合って！！



医師事務作業補助研究会の地方会などで知り合いを作り、隣の病院、遠くの病院、いろんな医師事務作業補助者と手と手を取り合って、仲間を作って、医師事務作業補助者のスキルアップを目指していくことが、みなさんのキャリアパスの形成に繋がっていくでしょう。

真剣に取り組んでいることを医師へ伝える事がミッション！！



ワークショップで、医師事務作業補助者の皆さんの生の声を聞いて、耳が痛い思いでした。皆さんが、医師のために真剣に業務に取り組んでいることを医師へ伝えることが、医師事務作業補助者の委員会の責任者である自分のミッションだと思っています。病院を良くするために、医療の質を上げるために、医師事務作業補助者をサポートする事が重要だと思っています。これからも皆さんをサポートしていきます。

医師は介護保険の書き方を知らない！！



医師は、介護保険の書き方を知りません。これを大前提に、医師の記録の中からは介護保険に役立つ情報は得られません。

①患者さんの問診表には大きな情報があります②看護師さんのADLの記録をいかに引き出すか③情報をたくさん持っている退院調整看護師、MSWと、うまく繋がる事が重要です。

介護保険の仕組みをしり、いかに必要な情報を得ることが出来るかを考え、介護保険の書き方を学べば、医師から、頼りにされます。いつまでたっても医学知識では医師に勝てませんが、介護保険、電子カルテの使い方なら、医師より得意になる事はできます。そのために、勉強していきましょう。



医者でも書類の書き方は知らないことがある！！

医者も既往症、合併症など、どこまで記載すればいいのか、分からないことがある。医者と一緒に、知識を増やしていくような方法を考えていきましょう。まずは味方になってくれそうな医師を院内で見つけましょう。そのためにもコミュニケーションスキルは身につけてください。皆さんの医師への貢献を期待しています。

【懇親会】 ハワーズエンド



愛知・岐阜支部 宴会部長の吉矢事務長の乾杯です。福岡、広島、福島、島根と、遠方からの参加の方たちも含め、30名ほどが参加しました。地方会では話せなかった人たちと、更に名刺交換し、たくさんの情報を交換することが出来ました。お酒が入った医師とは、更に打ち解け、充実した時間となりました。みなさまの懇親会の参加をお待ちしています。

【第3回 愛知・岐阜 地方会 案内】

- <日 時> 2015年5月30日（土）11:00～16:30
- <場 所> 羽島市文化センター 大会議室 岐阜県羽島市竹鼻町丸の内6丁目7番地
- <テーマ> 未定
- <内 容> 医師による医学講座・介護保険レクチャー・グループワーク



第3回 愛知・岐阜地方会ではお昼をとりながらの交流会を予定しています。一人でも多くの人にご参加いただき、横のつながりをいっぱい作って頂けたらと思います。尚、当支部のサポート医師にもご参加いただく予定です。今更聞けないこんな事・あんな事何でも結構です。医師及び、他院の医師事務作業補助者ととどどん情報交換しましょう。

【お問合せ先】

社会医療法人大雄会 総合大雄会病院 総合MC課

TEL 0586-72-1211（代）

E-Mail d-jimukyoku@daiyukai.or.jp

※ 予定は変更する場合がございます。